



教科書やノートなどの情報を、大画面にテンポよく映し出すことで、
クラス全体の集中力を高めると同時に、「学び合い学習」を促進。
苦手意識の克服や、学力向上を実現されています。

埼玉県草加市教育委員会 様

- 2016年より、市内の小・中学校において、ICTを活用した「学び合い学習」を実施
- ご導入機種
 - ・超短焦点プロジェクター RICOH PJ WX4152N 草加市の小中学校に256台
 - ・インタラクティブ ホワイトボード (D6500・D6510) 草加市の小中学校に62台

Customer Profile

- URL : <http://www.city.soka.saitama.jp/li/030/040/index.html>



子どもたち一人ひとりが、授業の主役。

学び合い学習の充実に向けて、

日常的に活用できるツールを求めています。



草加市教育委員会
教育総務部 指導課
主幹 (兼) 教育指導係長
渡辺 真一 様

埼玉県草加市教育委員会は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ICTを活用した「学び合い学習」を推進されています。ICTツールを、限られた場所で使う特別なものでなく、もっと日常的に使えるものにとらえ、市内の小中学校に、リコーのプロジェクターとインタラクティブホワイトボード (IWB) を導入されました。いかに児童や生徒の学びを豊かにできるか、現場の先生が『手段』として使いやすいかが選定ポイントでした。大画面に映し出される、教材、自分や仲間のノートを起点に、積極的に発言し、意見を交流させる児童や生徒たち。考える力・伝える力・理解する力を育む、柔軟な授業展開により、学習意欲の向上、学力向上など、様々な効果が生まれています。

導入前の課題

児童や生徒の板書による意見共有は時間がかかり、後ろの席からは読みにくかった。

発表が苦手な児童や生徒もいるため、活発な意見交流に苦労していた。

プリント教材の作成など、授業の準備に手間がかかっていた。

以前学んだことを振り返り、知識の定着を図るのに、効果的な手法を探していた。

導入後の効果

児童や生徒のノートを大画面に投影。多様な意見を、効率よく、クラス全員で共有できる。

柔軟な授業展開が可能となり、クラス全体の積極性が向上。苦手意識の克服や、学力向上につながっている。

資料や画像を、そのまま投影。テンポよく画面を切り替えることで、集中力がアップ。教材作成の負担も軽減している。

電子ペンで書きこみをした画面を單元ごとに保存できるため、視覚的に分かりやすい形で、振り返りができる。(IWB)

・ノートを大画面で共有することで、クラス全員が活躍する授業を展開。クラス全体の積極性がアップし、学力向上につながっています。（**済陽<わたよう>先生**）

・電子ペンで書きこみをした画面を、そのまま保存。單元ごとに管理し、振り返りに活用することで、学習内容の定着につながっています。（**吉原先生**）



草加市立高砂小学校
済陽 多良 先生

草加市立八幡小学校
吉原 祥 先生

プロジェクターは、プリント教材の代わりに、資料や画像を大画面で映すだけでも、児童たちの興味はぐっと高まりますし、コンパクトで操作も簡単。様々な授業スタイルに展開できる、柔軟性の高いツールだと思っています。例えば、算数の授業では、画面から読み取れることや気付いたことを、児童たちがノートに書き出します。まずは席の近い子と共有。ある程度、話し合いができた段階で、複数の児童のノートをタブレットPCで撮影して、プロジェクターで大きく投影。クラス全員で共有します。ノートをそのまま大画面で共有する方法なら、黒板に書き写す時間が削減できますし、何よりも、発表が苦手な子も含めて、どんな子の意見も、授業の中心になれるんですね。こうした経験を通じて、児童たちは、少しずつ発表することに慣れ、うまく話せなくても自然と助け合う雰囲気生まれ、今では全員が活躍するような授業を展開できるようになりました。（高砂小学校 済陽先生）

IWB導入による大きな変化は、授業の振り返りです。デジタル教科書に、電子ペンで書きこみをした状態のまま、画面の保存ができ、『学びの足跡』が残せること、そしていつでも再表示できることが、IWB最大の魅力だと思います。單元ごとに保存・管理しておけば、1学期の内容を3学期に振り返ることも、2年生で習ったことを4年生で振り返ることもできる。学びの過程が書き込まれた教科書を再表示できるからこそ、以前に学んだことを視覚的に確認でき、児童たちも具体的に思い出せるのです。また、クラスによって授業の進捗にバラつきが出てしまった場合でも、クラスごとに保存・管理をすることで、それぞれの学習状況に合わせた対応が可能です。

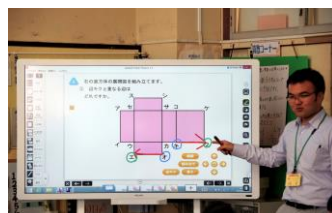
今後、校内の環境が充実していくにつれ、プロジェクターやIWBが活躍するシーンは、さらに広がっていくと思います。（八幡小学校 吉原先生）



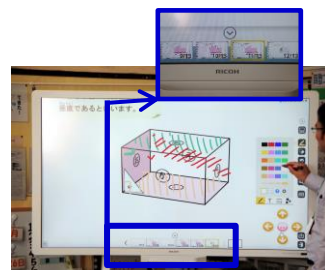
問題も答えも載っている教科書を、最初から開くのではなく、プロジェクターに適宜、情報を投影していくことで、児童の学習意欲が高まります。



タブレットPCからヒントを書きこむ済陽先生と、説明を聞きに来る児童たち。タブレットPCと同じ内容が、プロジェクターにも投影されています。



IWBとデジタル教科書を組み合わせた授業。電子ペンで書き込むことで、児童の意識を注目して欲しいポイントに集中させています。



IWB導入後は、單元ごとに画面を保存し、クリック一つで、以前の画面に戻すことができるので、オリジナル教材の作成・保管にかかる負担が軽減されています。

選定
ポイント

- ① 現場の先生が日常的に活用できる操作性（プロジェクター、IWB）
- ② コンパクトで設置場所を問わず、多様な授業スタイルに対応（プロジェクター）
- ③ 至近距離から、大画面表示が可能（プロジェクター）
- ④ 映し出した教材に、直接書き込みが可能（IWB）
- ⑤ 單元ごとに保存でき、再表示も簡単（IWB）

草加市教育委員会様のソリューション事例を、さらに詳しく、Webで。

http://www.ricoh.co.jp/case/1803_soka/

リコープロジェクター

<http://www.ricoh.co.jp/projector>

リコーインタラクティブ ホワイトボード

<http://www.ricoh.co.jp/iwb>

RICOH
imagine. change.

リコージャパン株式会社



本レポートは、リコーが提供する新しいクラウドサービスである Clickable Paper サービスに対応しています。

スマートフォン/タブレット端末用アプリケーション「TAMAGO Clicker」(無料)をダウンロードし、ページを撮影(クリック)すると、関連情報のあるインターネット上のサイトがご覧いただけます。
www.ricoh.co.jp/software/other/clickablepaper/

※本ちらし記載の会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。

お問い合わせ・ご用命は

<http://www.ricoh.co.jp>